

## 芽生え、育って実を結び

<聖書のことばより> 10月

「また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、  
あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった」  
(マルコによる福音書 4章8節)

いっときの猛暑はなくなり、秋風の涼しさも感じられます。  
夏の名残の朝顔が、通りがかりの小学校の柵につるをからませていました。

ある学校の1年生クラスで朝顔を育てたそうです。  
「僕の朝顔、芽を出したよ」「わたしのも、つるが伸びてきた」  
しかし、一人の鉢だけ、いくら待っても芽が出ません。  
次の日も、また次の日ものぞきこんでいる。  
若い担任の先生は「名案」を思いつきました。  
別の子の植木鉢に芽が二つ出っていたので、一つを分けてもらったのです。  
最後の子の鉢も順調に育ち、やがて可愛い花を咲かせました。  
「よかったね、〇〇ちゃん」と声をかけると、その子の答え。  
「でも、これ、ぼくの種じゃないから…」。  
結果だけ合わせようとして失敗したと、先生は気づきました。

日本の畑では、丁寧に耕した良い土地に、整然と種をまきますが  
当時、イエスさまの国の種まきはおおらかでした。  
耕す前に種をまく。腰巾着に入れた種を掴んでは投げ、掴んでは投げ。  
道端や茨の土地や石地に落ちるとうまく育ちませんが、お構いなし。  
その後耕した良い土地に落ちた種が、三十、六十、百倍にも実るのだから。  
種は必ず「芽生え、育って実を結び」。その時を心から待ち望もう。

先ほどの先生が数年後再び1年生クラスを担当しました。  
初夏のある日、昔と同じように鉢をのぞき込んでいる子がいました。  
しばらく見守った後、その子に次のように声をかけました。  
「おかしいね、朝顔さん、お寝坊してるのかなあ。起こしてみようか」  
一緒に土を指でほって見た。「あ、こんなところにいた。寝坊助さんね」  
種をあまり深く埋めていたため、芽が地表に出られなかったのです。  
浅く埋め戻してあげて3日後、「やったあ、僕の芽、でたあ」  
自然への興味と慈しみの「芽」が、その子の心にめばえた瞬間でした。

神さまは、一見悪いと思われる土地も、良い土地に変える力があります。  
良い土地で、あなたの種を何倍にも育てたいと心から願っているのです。  
(つくし保育園園長 つだかずお)

<お庭のチャペル 礼拝のご案内>

毎週日曜日午前10時30分 だいが教会

聖書のたのしいお話と讃美歌

はじめての方も心より歓迎します。